

健康の先の、幸せを願う こども編

公衆衛生医師歯科医師連絡会

2022.11.17

出雲保健所 中本 稔

健やか親子21全国大会に参加した

厚労省母子保健課 山本圭子課長 (山口大学産婦人科出身)
プレコンセプションケア？

浜田市、光市の保健師の発表

おっばい宣言

フロアからは和歌山県海南市の保健師

浜田市も光市も、出生する子どもが減っていた

HPVワクチンの勧奨接種再開とキャッチアップ

子宮頸がんをどこまで抑える

男性には中咽頭がんが先進国並に増えるとの予測

20年後の地域をイメージできるか

県央保健所での精神の通報、措置対応

通報) 20代の障がい者が、ナイフで親を刺そうとした...

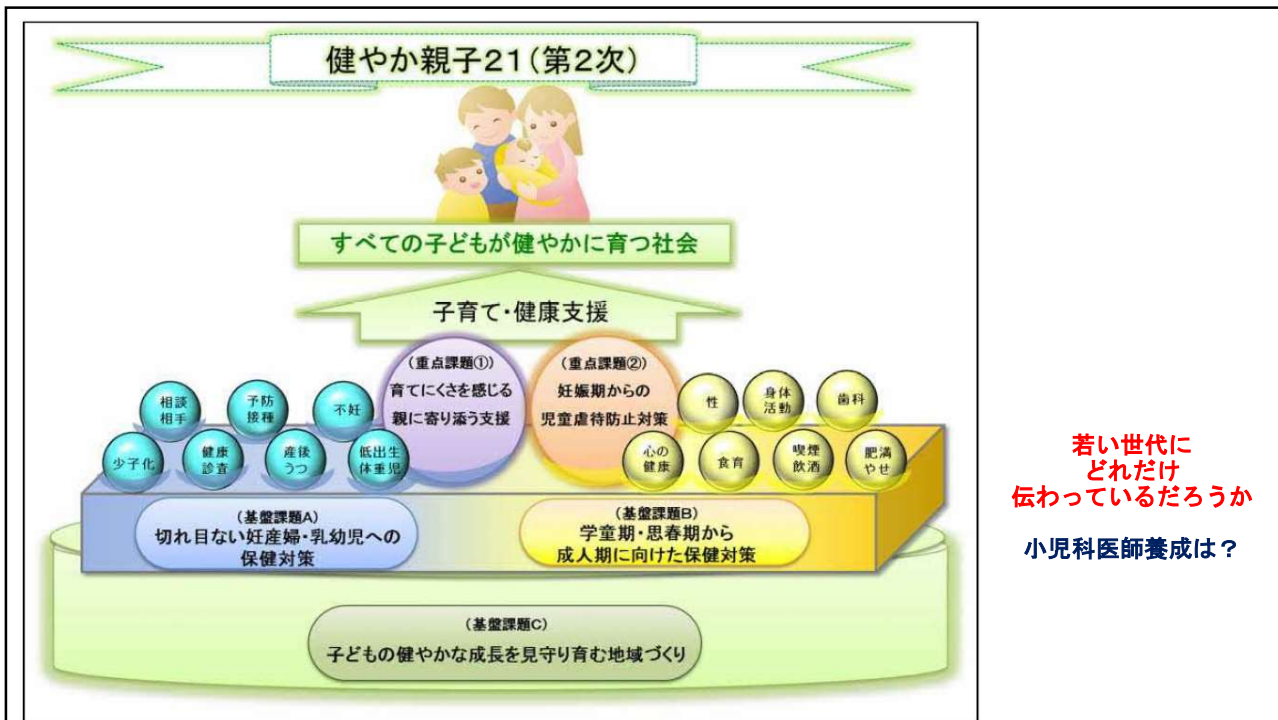
この若者が乳児期に、DV・虐待。骨折、学校でいじめ。
知的、身体、そして精神と、町と保健所保健師が関わる。

○保健師 「20年後の人生を責任もって作る」

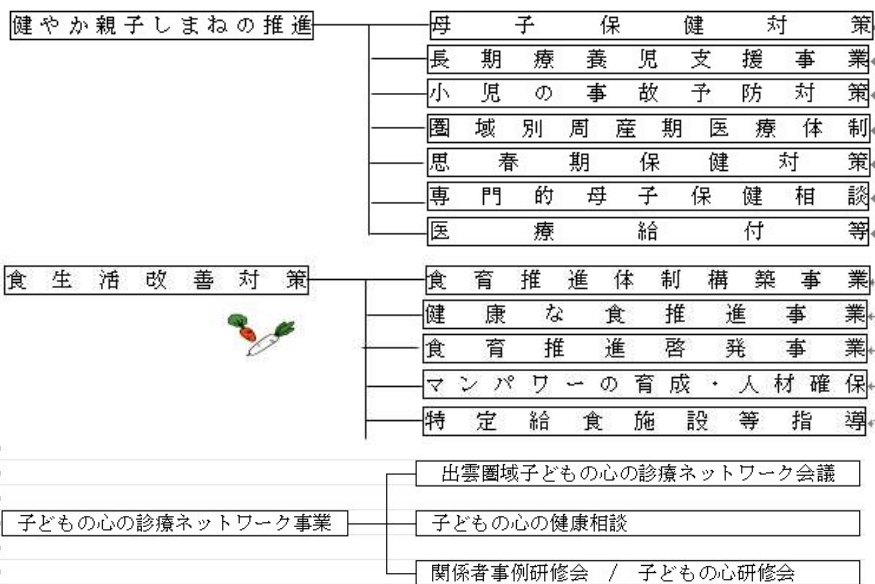
○江津の赤ちゃん訪問(鳥取の高塚先生)

改めて、母子保健を考えると

- 母子保健法の主体は市町村
- 生涯通じた健康+次世代の健康を考える
- 子どもを産み育てようとするとき、保健施策だけでは限界
- 高齢者の包括ケアシステムと同じ仕組みづくり
- 20年後の地域の姿を思い浮かべることができるか
- 産科、小児科の医療提供の確保は、切実
- 新卒医師の確保、臨床研修、開業医支援
- 次世代育成支援対策法は労働者と子育て



出雲保健所の母子保健（健康増進課、心の支援課）



1 医療提供 出雲の産科と小児科

○出雲市の出生数

1415 (2020) 1635 (1995) *3067 (1975) *出雲圏域

産科 病院2 医院3 オープンシステムも

小児科病院4 医院24 (内科小児科も含む)

○加藤論文 (島根医学 42(1)15-22, 2022)

県中小児科の15年間の死亡事例から「防ぎえた死亡」

全死亡76名 新生児からの死亡42名を除く34名を考察

基礎疾患なし15名

急性疾患3 事故4 (溺水3窒息1) 虐待2 絞殺1 縊死1 不明4

◇課題

周産期母子センター (総合、地域) と民間の連携

産科医師、小児科医師の絶対数が減の中、医師負担は？

小児科医師からは低出生体重児を減らす妊婦の食支援の指摘

小児科開業医師の年齢↑

事故予防 Safety Promotion 家庭内事故、自転車ヘルメット、救命ジャケット

時代とともに変わる？ 妊婦への体重目標 (2021)

妊娠前の体格

	18.5未満	18.5-25.0	25.0-30.0	30.0ー
現在 *	9-12kg	7-12kg	(個別対応)	
学会案	12-15kg	10-13kg	7-10kg	5kg

* 健やか親子計画(2006)

2 こころ 児童精神と発達障害

○こころの相談事業

○こどもの心診療ネットワーク

こころの医療センター（児童精神） 思春期外来は2月待ち？
研修会、事例検討会、

○出雲市子ども・子育て会議 発達支援検討部会

▽出雲市発達アセスメント会議

出雲市、出雲医師会（小児科医）、大学小児科がネットワーク

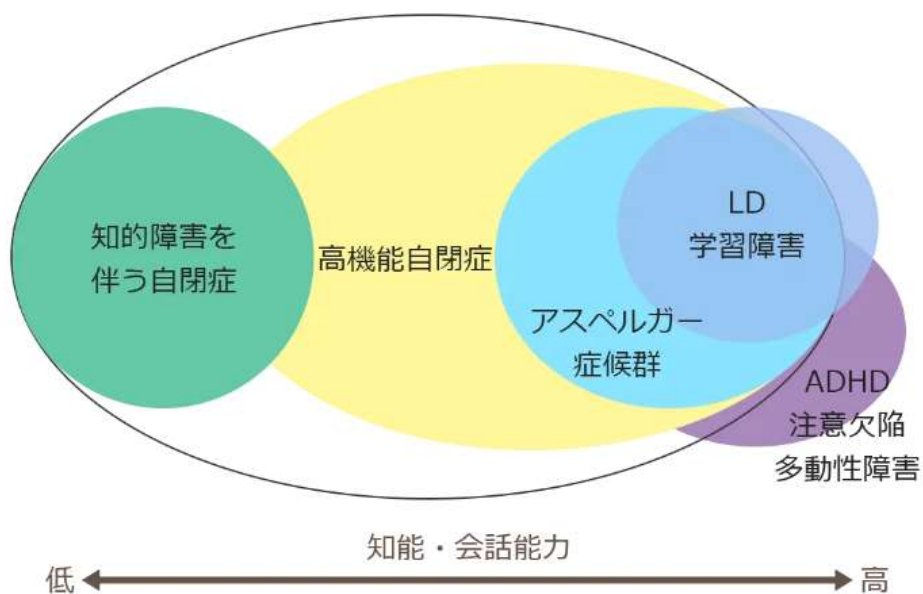
○ウイッシュ 発達障がい者初診前アセスメント強化事業 相談室YUI

◇CRT Children Crisis Rescue Team（山口県精神保健センター）

子どもの死や親の死のときに、

子どもたち（ときにその支援者も）の心の負担を軽減する取り組みチーム
保健所の過去事例では、宇和島水産高校練習船沈没も

自閉症スペクトラム（広汎性発達障害）



3 思春期保健 性 メディア

○思春期保健ネットワーク連絡会

○学外講師 性に関する授業 講義資料（パワポ）作成

○メディア

松原論文（島根医学 41(2)19-24, 2021）

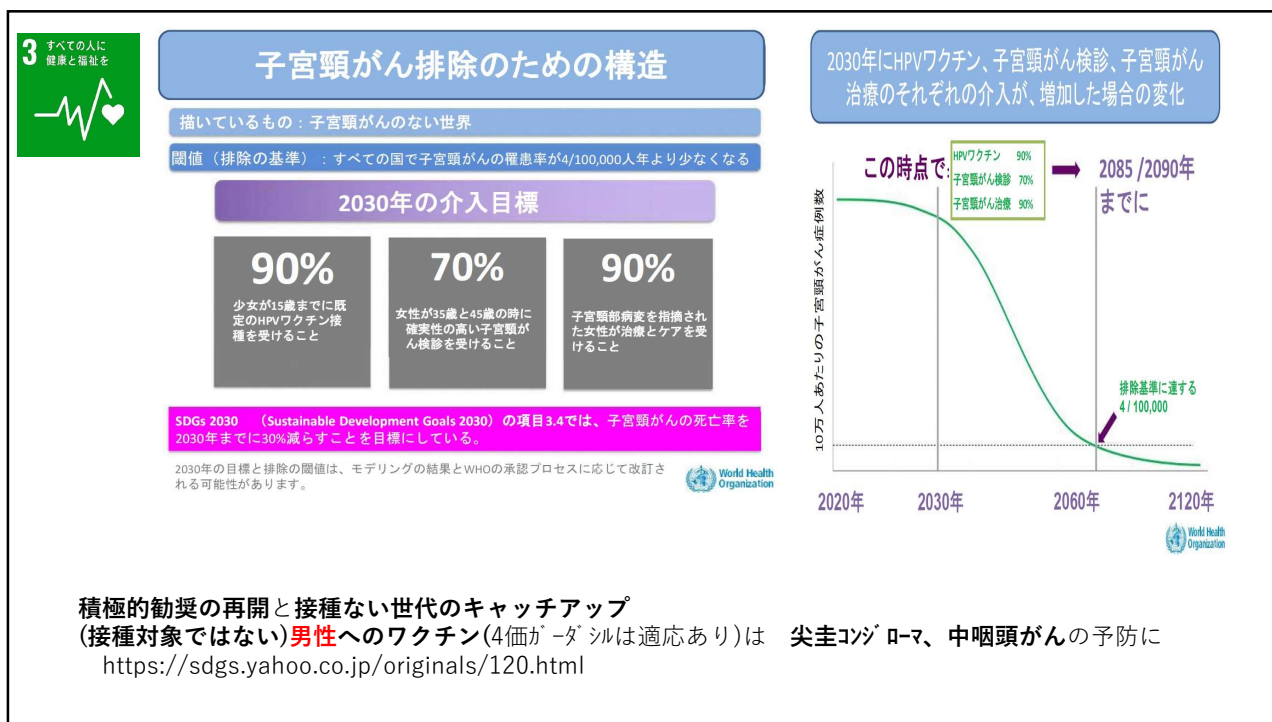
2019年に小学校2、中学校1 子と親の調査

家庭（親子）でルールを決めてメディア利用を

養護教諭訪問（小、中、高）

①こころ ②メディア ③コロナ禍の生活習慣

◇HPVワクチン？



上田豊講演（公衆衛生学会）から

一刻も早い HPV ワクチン積極的勧奨再開は当然として、..

HPV ワクチンの積極的勧奨再開後の課題 ～積極的勧奨一時差し控え継続による頸癌リスクの上昇軽減とワクチンの再普及～

- ① ワクチン接種を見送り対象年齢を越えた女子へのキャッチアップ接種の機会の提供
- ② 9 価ワクチンの定期接種への導入
- ③ 男子の定期接種化
- ④ ワクチンを接種しないまま性交渉を持ち始めた女子に対する子宮頸がん検診受診勧奨強化
- ⑤ 行動経済学的概念に基づいた接種勧奨によるワクチンの再普及

(Ueda Y et al. Lancet Oncol, 2018;19:1563-1564、改変)

上田豊「HPVワクチンを本来の接種状況に戻すための戦略の開発」
大竹・平井編「実践 医療現場の行動経済学」東洋経済 2022年

ナッジ理論

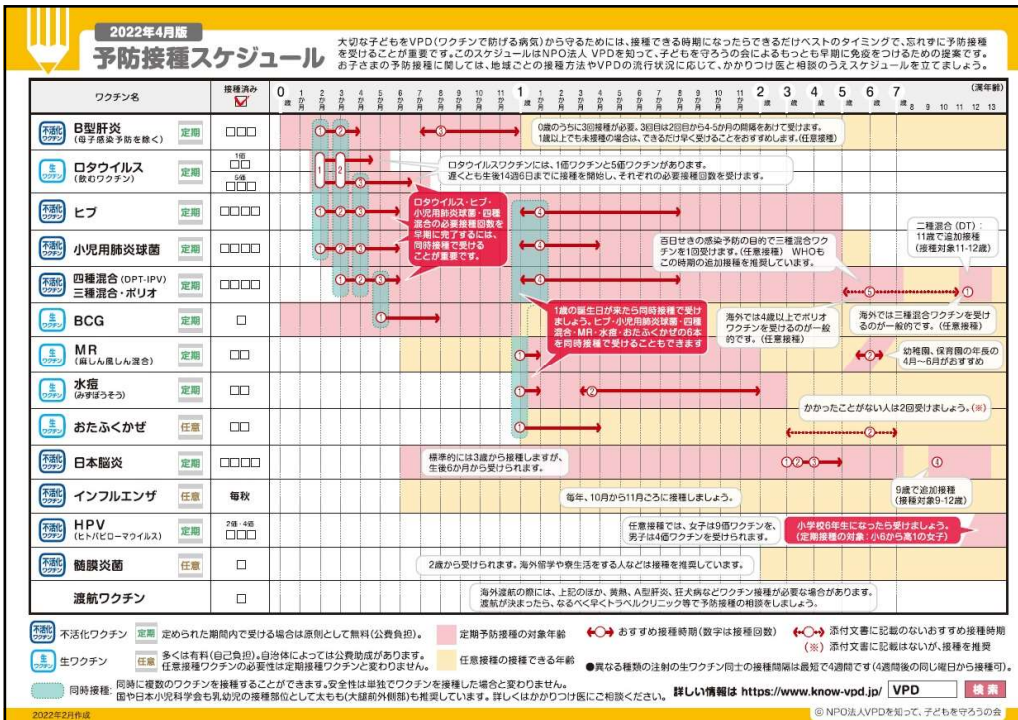
勧奨接種再開
と
キャッチアップ成功
は
「親友同調」

SNSもいいけど
近くの友だち



「コロナで自棄はうんざり」
検査なんて面倒と誓われたら？
すぐ使える解決策が満載！

医療関係者、
患者、企業、自治体関係者 絶賛
ロングセラー『医療現場の行動経済学』続編 4冊目



VPD
子ども
一人ひとりに
健康な未来を
描くことが
できるか？

ワクチン接種
ができる環境

兄弟姉妹
保育園で風邪が流行？
親の仕事の関係
転居先での接種券
留学時には接種証明

4 要医療児

- 個別ケアの支援
災害時支援計画4+1

	1歳未満	1、2歳	3、4歳	5、6歳	7～12歳	13歳以上	計
令和4年	1	12	2	9	5	1	30
割合(%)	3.3	40.0	6.7	30.0	16.7	3.3	100.0

- ◇出雲市児童発達支援センター（CSいずも放課後デイ7、センター4）
利用まちの児童もある
- ◇保育所幼稚園で受入体制がなく、希望しても利用できない事例
- ◎島根県医療的ケア児支援センター(大学病院内) が開設
法により県にセンターを作ったけれど．．．
- ◇国の調査報告 2019年 PDF参照

5 要保護児童 虐待、貧困、多様性 ＋特定妊婦

- 児童相談所との連携
コロナ禍で進んでいない（児相、保健所、市で会合？）
- 出雲市の特定妊婦 産後ケア事業等でフォロー
- ◇改めて、貧困が見えない
コロナ感染した家庭で、ワンオペ。継父、実家の高齢者の関係
「保存食」がない。米がない、米を炊くことがない？
事件）保育所に預けたつもりで車中熱中症死亡は、社会問題

表. 1歳以上15歳以下の子供を対象とする**子供の剥奪指標**

- 1) 野菜・果物を1日1回摂取
- 2) 肉・魚又は相当するたんぱく質を1日1回摂取
- 3) 勉強や宿題をするのにふさわしい場所がある
- 4) 家で十分な暖が取れる
- 5) 古くなった家具の買い替えができる
- 6) 新しい服がある（中古品は含まない）
- 7) ぴったりの寸法の靴が2足（1足は全天候型）ある
- 8) 自家用車がある
- 9) 費用のかかる学校の遠足や活動に参加する
- 10) 年齢にふさわしい書籍を持っている
- 11) 屋外でのレジャー用具を持っている
- 12) 屋内用のゲームを持っている
- 13) 定期的なレジャー活動を行う
- 14) 家にPCと自分用のインターネット接続がある
- 15) 1年に最低1週間、家を離れて休暇を過ごす
- 16) 遊びや食事のために時々子供を家によぶ
- 17) 特別なときのお祝いをする
- 18) 住宅ローン、家賃、公共料金、分割払いの滞納がない

出典) EU ヨーロッパ2020戦略の「貧困と社会的排除の基準」
 (内閣府「子供の貧困対策 平成28年度子供の貧困に関する
 新たな指標の開発に向けた調査研究報告書」から)

貧困の定義？
 貧困対策は？

生涯通じて
 議論してほしい

次世代のために

こどもの未来の、安全・安心

- 市町村との連携、医療提供の確保
- 思春期、プレ、妊娠、出産、産後、乳幼児健診、発達障害支援
- 食育・栄養確保、事故予防、VPD
- 特定妊婦、虐待・DV
- 子どもを産み育てることの幸せを伝えられないか